

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議において、理念の共有をしています。また具体的な支援を行う際にも、理念に沿った形での支援ができているか再確認をしている。	理念はスタッフルームに掲示している。毎月のカンファ・入居者が入所した時、問題があった時には常に全スタッフに説明・共有している。スタッフから「理念に沿って対応をするよう心掛けています」と話がある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症予防対策のため運営推進会議の開催やこれまでのような他事業所や地域とのつながりが困難になっている現状があるが、できる範囲で近隣への散歩や人混みを避けた外出等を行っています。	コロナ感染の関係で以前参加していた三水倶楽部(S型デイサービス)への参加ができていない。また、公民館が民家の為、段差など上がれる入居者がいない。今後、お元気な方が入居されたら、参加意向あり。現在は散歩時に挨拶をする程度の地域との交流がある。	コロナなど感染状況を見ながら、施設のイベントに地域の方が参加していただけるような環境を作っていただくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や民生委員の方からの相談等あれば、適宜対応させて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症予防対策のため運営推進会議の開催は中止しています。関係機関等に資料を配布し、ホームへの意見などをいただきサービス向上に活かしている。	近隣他グループホームの開催方法を確認しながら、包括と相談し開催人数を決めている。現在は市に報告のみとしている。施設への意見など常に確認している。	素晴らしい運営をされているので、今後は運営推進会議時に多くの方に施設の良さを理解していただけることを期待しています。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの実情を積極的に伝え、運営についての不明点など確認を行い、その都度助言等をいただき協力関係を築いている。	包括支援センターとは常に連携を取っている。市とは文章でやり取りを行っている。困ったことなどは随時市町村に問合せをしてアドバイスを頂いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議において、事例検討や指針の確認を行い、身体拘束をしないケアの実践について職員間で検討している。	現在身体拘束を行っていない。スタッフルームには「身体拘束0宣言」「スリーロック」のポスターを掲示している。3カ月に1度の事例検討、年1回指針の再確認、スピーチロックの振り返りを実施している。すぐ拘束ではなく「なぜ○○さんは動くのか」など心理を追求している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で情報共有を密にし、現在行っているケアや対応方法について話し合う機会を設ける事で虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	OJTやOff-JTを活用し、職員に向けた勉強会を開催している。必要に応じて制度の活用についても検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度行っています。必要に応じて訪問させていただき十分な説明を行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とは、密に連絡をとりコミュニケーションを図っている。また現在は開催を中止している運営推進会議ですが、資料等送付し皆様からの意見をいただいている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良い事業運営を行うためにも、スタッフからの生声は日々吸い上げ反映させている。職員とはSNSを通じて身近な立場で繋がっています。	風通しの良い環境になっている。開設してから常にスタッフの声を吸い上げて運営に生かしている。食事提供時間、排泄など対応方法を変更したケースがある。スタッフからも「他スタッフと言い合える環境」と話がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種手当の基準を明確にし、また資格取得に際しても法人で助成を行っている。個々の生活環境を考慮し、勤務調整や皆が働きやすい職場作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に合った外部研修への参加設定や、ホーム内においてもカテゴリー分けした担当制を設け能力の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ感染予防対策のため、他事業所との交流は控えています。以前は法人内で他事業所への訪問や交流等を通じて互いに刺激を受け、質の向上を図っていた。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、課題分析を行う。入居当初は様々な環境変化から混乱してしまわぬよう、生活環境に注意し落ち着いた環境作りを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との信頼関係の下、より良いサービスが継続していけると考えています。インテーク時にしっかりと話し合いの場を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークにおいて課題分析を行い、ご本人に必要なサービスが提供されるよう全職員で情報共有し必要におうじて関係機関とも相談や調整を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様からもご本人だけの情報だけでなく、家族としての想いを聞きホームとの絆が途切れないよう心掛け、またプランに反映させている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からもご本人だけの情報だけでなく、家族としての想いを聞きホームとの絆が途切れないよう心掛け、またプランに反映させている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人を困む関係のある方に向けて、ホームからも積極的に連絡を取り合っている。また外出を通じて地域との関係の継続に努めている。	家族と一緒に外出、外泊をしていただいている。家族本人が希望すれば、今まで通院していた病院に継続して受診することも可能。以前は帰宅願望が強い方に対し、受診後に自宅までお連れしたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様が気持ちよく過ごせるよう、座席の配置や共通の話題作り、個々の特性を活かした役割による助け合いなど工夫しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の介護だけでなく、家族の環境等を把握し、それぞれの課題に対しホーム側からも積極的にアプローチしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人をより深く知り得るために、利用者個々に担当者を設け、またご家族様からも適宜暮らしの意向等聞き取りをし、カンファレンスにおいて情報共有している。	居室担当者を設けている。衣服の衣替え、毎月のお手紙、入居者の代弁者として対応している。カンファレンス時に一人一人の情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビュー時やご家族様から情報収集を行い、全職員で共有している。またホームで生活していく中でご本人の聞き取りからも把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・食事・水分・排便その他身体や精神状態の異変等記録し、全職員が閲覧する事で、現状の把握をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたり、現状の把握及びその後の課題についてホーム職員はもちろんご家族様や関係機関にも適宜相談して作成しています。	24時間シート、申し送りシートを全スタッフが確認をしてケアプランに反映している。スタッフから「外出したい」「入浴回数を増やしてほしい」など意見が頻繁に出てくる。月1回のカンファレンスでも話し合いをした上でまとめ、ケアプランに落とし込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化や気づき等あれば、都度記録しカンファレンス等において情報共有し、プランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内での介護以外にも、今必要な支援やご本人及びご家族様の要望にも応えられるよう柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの暮らしを把握し、ホーム以外の支援者等の関係の継続に努めています。またご本人の要望に応じて外出などの支援も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居しても馴染みのあるかかりつけ医での診察を継続し、ご本人やご家族様と相談しながら受診を支援している。また必要に応じて往診医の利用も助めている。	本人、家族の判断で以前から通院していた病院か施設協力医にするかを決めていただいている。訪問診療は月1回程度。何かあった時は主治医に連絡し指示をもらっている。訪問看護により週3回入居者を看ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態を訪問看護師に随時相談している。24時間対応や場合によっては訪問対応していただき、最期まで適切な看護を受けられる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じて病院を訪問し面会に行き、担当医や看護師とも十分な話し合いを行っている。またMSWとも良好な関係を継続できるよう適宜連絡を取り合い情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化時など、ご家族様やご本人に意向の確認や今後のホームでのケア方針など担当者会議を設け確認を行っています。各同意書についても都度確認をし、関係機関と密に連携しながらご本人やご家族様を支援させていただいております。	入居時に看取りについての説明を行っている。看取り時は家族と連絡を取り、希望があれば施設に宿泊していただくことも可能。スタッフへの教育(研修)は年1~2回実施しているが、ベテランスタッフが多く、看取り時期を報告してくれるスタッフが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時や職員会議において急変時の対応についての確認や外部での研修等に参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練時において、消防署員に最適な避難方法等の助言をいただき全職員で共有しています。災害備蓄品においては1週間分確保しています。	年2回入居者を含めた訓練を行っている。5月は避難訓練、通報訓練。10月は総合訓練。入居者にも水消火器を使用してもらっている。食品1カ月、薬3カ月を備蓄している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個性を理解し大切にされた対応がスタッフ皆ができるようホーム会議で情報共有し、実践に繋げています。	入居者の自由に生活をしてもらっている。好きな場所などスタッフは把握している。居室ドアは基本閉まっている。スタッフの言葉かけは随時注意をしている。必要があればカンファレンスで検討をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを知る為に、しっかりと利用者様の声を傾聴し、何を望んでいるのかご家族様や職員間で話し合い実現できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースや状況が理解できるよう職員間で共有しています。決して無理強いすることなく本人の意向に合わせた支援を心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参された衣類等を、職員が本人に確認しながら選定している。またご家族様にも協力を依頼しおしゃれを楽しめるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や食器片付けなども利用者様に役割をもって一緒に行っています。できる限り口から摂取できるよう食事形態や介助方法にも工夫して取り組んでいます。	出来る限り個々の食事時間を調整している。食器を洗ってくださる方もいる。野菜の皮むきが出来る方がいれば、一緒にやってもらう。リビングにキッチンがあり、匂いを楽しむことができる。湯呑など自宅で使用していた物を持ってきてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員が利用者様個々の状態がわかるようシートに記入し情報を共有しています。また栄養面など必要に応じて専門職にも相談しながら支援させていただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に応じた口腔ケアを行っています。また歯科医や歯科衛生士による助言を受けたり必要に応じて訪問歯科の利用も勧めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや身体機能を把握し、トイレ誘導を行っています。本人の出来ることを大切に活かしながら無理のないよう「トイレでの排泄」を基本に支援しています。	24時間シートを見ながら、トイレ誘導をしている。カンファレンス時、リハビリパンツからトイレでの排泄に変更できる可能性がある入居者は、検討をして出来る限りトイレで排泄できるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽度な運動や、飲食物の調整等行っています。主治医にも相談しながら自然な排泄ができるよう努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	体調やその日の状態に応じて柔軟に対応している。入浴中こそ職員とのマンツーマンでのコミュニケーションが出来る場であり、会話を楽しんだり相談にもものって気持ちの良い入浴となるよう心掛けています。	基本週2回。その日の体調、気分を見ながら日にち・時間・スタッフ変更して入浴していただいている。スタッフの対応が良く現在は入浴拒否をする方がいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣を理解し、その日の体調等考慮しながらご本人のペースで生活できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員会議において、精神や身体状態、薬について確認を行っている。新しく処方されたお薬についても副作用や状態変化がないかなど、特に注意しご本人を観察し記録しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人が得意な分野での役割を持つことでメリハリのある生活となるよう工夫しています。各月においても催し事を開催し気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段では近所の散歩やお買い物に行きます。遠出や外泊などもご本人やご家族様の希望に沿えるようホームでも協力している。	入居者の体調、天候などに考慮しながら、外出を行っている。毎日散歩に行くときもある。日曜日はドライブに出掛けることがある。外出先で服やおやつ等を購入した際、可能な限り本人に支払いをしてもらう。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホーム側で行っていますが、ご本人の要望に応じてお買い物に出掛けたりいつでも使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々生活しやすいよう、標識や目印等をつけてわかりやすい空間作りの工夫をしている。また室温や湿度、物音等にも注意し落ち着いた環境となるよう気を付けています。	居室部分とリビングの間にドアがあり、自宅に近いつくりになっている。温度管理もしっかり出来ている。日付・曜日がわかるようにリビングに「今日は○月○日○曜日」と大きく掲示している。建物には木が使われていて落ち着いた雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内で制限を設けることなく思い思いの時間を過ごしていただいています。気の合う利用者同士が会話などお互いに楽しめるよう座席の配置を工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が慣れ親しんだ物などご自由にお持ち込みいただいています。自身の物が周囲にあることにより落ち着く空間となるようご家族様とも相談しながら進めています。	自宅で使用していた物は制限なく持ってきていただいている。自宅に近い物があることにより、落ち着いて生活していただける。以前は書道師範の看板を居室前に設置した方がいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器洗いや洗濯たたみなどご自身でできることは積極的に行っていただき、それにあたり物の配置や高さなどにも配慮しています。		